

文化遺産国際協力コンソーシアム第37回研究会

文化遺産保護の 国際動向

講演 1

世界遺産条約をめぐる昨今の動向

講演 2

無形文化遺産の保護に関する条約をめぐる
近年の国際動向

講演 3

アフリカにおける遺産の
オーセンティシティに関する国際会議での議論

2026.1.17 sat

13:30 - 16:30 (13:00開場)

会場 東京文化財研究所 地階セミナー室
(東京都台東区上野公園13-43)



文化遺産保護の 国際動向

文化遺産国際協力
コンソーシアム
第37回研究会

2026.1.17 sat (13:00開場)
13:30
16:30

目次

| | |
|-----------------|---|
| 開催趣旨 | 2 |
| プログラム | 2 |
| 講演要旨 | 3 |
| 登壇者プロフィール | 6 |

開催趣旨

文化遺産国際協力コンソーシアムでは、文化遺産をめぐる国際的な議論の最新情報の共有を目的として、「文化遺産保護の国際動向」と題した研究会を開催いたします。今回は、昨年7月中旬にフランス・パリのユネスコ本部で行われた第47回世界遺産委員会の様子や、インド・デリーで12月に開催の第20回無形文化遺産の保護に関する政府間委員会の様子などをいち早くお届けするとともに、いまアフリカ諸国を中心に活発に議論されている世界遺産のオーセンティシティに関して、5月にユネスコがケニア・ナイロビで開催した国際会議の様子を取り上げます。ディスカッションでは、国際的な文化遺産保護の取り組みの中での日本の役割について、また、未来に文化遺産を伝えていくための国際的な協力の在り方などについて議論します。文化遺産保護に関心をお持ちの多くの方のご参加をお待ちしております。

プログラム

- 13:30-13:35** 開会挨拶・趣旨説明
● 岡田 保良(文化遺産国際協力コンソーシアム 副会長 / 日本イコモス国内委員会 委員長)
- 13:35-14:10** 世界遺産条約をめぐる昨今の動向
講演1 ● 西 和彦(文化庁 文化資源活用課文化遺産国際協力室 主任文化財調査官)
- 14:10-14:45** 無形文化遺産の保護に関する条約をめぐる近年の国際動向
講演2 ● 野嶋 洋子(アジア太平洋無形文化遺産研究センター 研究担当室長)
- 14:45-15:20** アフリカにおける遺産のオーセンティシティに関する国際会議での議論
講演3 ● 岡崎 瑠美
(文化遺産国際協力コンソーシアム アフリカ分科会委員 / 芝浦工業大学 建築学部建築学科 准教授)

休憩15分

- 15:35-16:25** パネルディスカッション
● パネリスト：上記講演者
● モデレーター：岡橋 純子(聖心女子大学 現代教養学部国際交流学科 教授)
- 16:25-16:30** 閉会挨拶
● 青木 繁夫(文化遺産国際協力コンソーシアム 副会長)

登壇者プロフィール

西 和彦(にし・かずひこ) 文化庁 文化資源活用課文化遺産国際協力室 主任文化財調査官

1996年より文化庁において建造物保護を中心に文化財行政を担当。国際文化財保存修復研究センター(ICCROM)(在イタリア・ローマ)プロジェクトマネージャー(2005年~2006年度出向)を経て、国内文化財の保護に並行して各地の世界遺産推薦や世界遺産委員会に関わる。2022年4月より現職。国際文化財保存修復研究センター(ICCROM)理事。著作に「近代和風建築」(『日本の美術、第450号』、2003年)『世界文化遺産の思想』(2017年、共著)など。

野嶋 洋子(のじま・ようこ) アジア太平洋無形文化遺産研究センター 研究担当室長

2008年、ハワイ大学人類学部大学院で博士号を取得。専門はオセアニア島嶼地域の文化史、遺産研究で、バヌアツを主なフィールドとして調査研究を行う。帰国後、国際日本文化研究センタープロジェクト研究員を経て、2014年から5年間、アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)にアソシエイトフェローとして在籍。無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する調査研究事業の企画・運営をはじめ、無形文化遺産保護に関連する様々な事業に従事した。2021年より同センター研究担当室長として、持続可能な開発や気候変動など、今日の世界的課題に注目した無形文化遺産の国際協力事業を主導している。

岡崎 瑠美(おかざき・るみ) 文化遺産国際協力コンソーシアム アフリカ分科会委員 /
芝浦工業大学 建築学部建築学科 准教授

慶應義塾大学にて学術博士を取得(2015年)。慶應義塾大学大学院助教。フランス国立科学研究センターの訪問研究員等を経て、2021年より芝浦工業大学建築学部建築学科准教授に着任。専門は建築史。20年以上にわたりエチオピアを中心としたアフリカにおける建築遺産の研究に従事している。

岡橋 純子(おかはし・じゅんこ) 聖心女子大学 現代教養学部国際交流学科 教授

専門は国際文化協力、文化遺産学、文化政策論、都市論。東京大学大学院総合文化研究科地域文化(フランス)研究専攻博士後期課程修了、博士(学術)。2002年より2011年まで国連教育科学文化機関パリ本部、文化局世界遺産センターに勤務し、各国における世界遺産アドヴォカシーに従事。ヨーロッパ、アジア・太平洋やアフリカでの世界遺産の保全管理、とりわけモニタリングやマネジメントプラン策定に携わる。

著書に『日本外交の論点』(「世界遺産をめぐる日本外交」)、『世界遺産 富士山の魅力を生かす』(「自然遺産から文化的景観へ マオリの聖地、「信仰の対象」としてのトンガリロ山」)、Post-trauma and the Recovery Governance of Cultural Heritage (Significance of Special Laws in Post-disaster Restoration and Recovery of Cultural Heritage: The Case of the Special Law for the Conservation and Restoration of Notre-Dame de Paris), The Future of the Bamiyan Buddha Statues (“Could the Giant Buddha Statues of Bamiyan Be Considered as a Case of “Exceptional Circumstances” for Reconstruction?”), 他。

文化遺産国際協力コンソーシアム第37回研究会

文化遺産保護の国際動向

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局

〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43

独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所内

E-mail: consortium_tobunken@nich.go.jp

Tel: 03-3823-4841



JCIC-Heritage

文化遺産国際協力コンソーシアム第37回研究会

文化遺産保護の 国際動向

講演 1

世界遺産条約をめぐる昨今の動向

講演 2

無形文化遺産の保護に関する条約をめぐる
近年の国際動向

講演 3

アフリカにおける遺産の
オーセンティシティに関する国際会議での議論

2026.1.17 sat

13:30 - 16:30 (13:00開場)

会場 東京文化財研究所 地階セミナー室
(東京都台東区上野公園13-43)

